

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 聖心女子学院高等科 (※正式名称を記載)
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}
☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☒ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む
所在地 〒108-0072
東京都港区白金4-11-1
E-mail _____
Website http://www.tky-sacred-heart.ed.jp
児童生徒数 男子 _____ 名 女子 342 名 合計 342 名
児童・生徒の年齢 15 歳 ~ 18 歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、教育理念にある「世界の一員としての連帯感と使命感を持って、より良い社会を築くことに貢献する」を根幹に、ESD をグローバルマインド育成のための諸活動に不可欠な指標と捉え、ESD の実践を通して、共生の視点と主体的に課題解決に取り組む力の育成を目標とした。

具体的には、身近な課題に取り組む姿勢とグローバルな視野に立ち、①国際理解・文化多様性に係わる活動、②人権・平和に係わる教育、③持続可能な生産と消費に係わる学習を行った。

① 国際理解・文化多様性に係わる活動

高等科 1、2 年生の希望者は三週間のオーストラリア語学研修に参加した。メルボルン郊外にある共学の学校で、ホームステイをしながら英語やオーストラリア特有の文化について学んだ。また、地元の老人ホームや小学校も訪れ、日本文化を紹介した。その他、アメリカ、アイルランド、オーストラリアや台湾の姉妹校へ生徒を派遣し、受け入れも行った。春休みにはカナダの KAKEHASHI Project に生徒数名が参加し、SNS に発信した。帰国後、高等科生の前で発表を行った。

② 人権・平和に係わる教育

高等科 2 年生は長崎研修旅行に参加した。「平和」、「歴史」、「キリシタン」の三本柱の元、原爆資料館、平和公園、日本二十六聖人記念館、外海地区の他、クラス毎に天草・平戸を訪れた。事前に個人テーマを設定して自ら調べ、長崎市内班別研修を行い、学んだことをレポートにまとめた。文化祭では学年展示と共に、長崎の活水高校にならい、核兵器廃絶に向けての「高校生 1 万人署名活動」にも参加した。

③ 持続可能な生産と消費に係わる学習

高等科 2・3 年生と姉妹校生徒により、カンボジア体験学習を実施した。事前学習により、歴史と国情の理解・把握に努めた。現地ではポルポト政権時代の歴史学習を通じ、平和の構築についても学び、アンコールワットを始めとする世界遺産も訪問して、文化遺産の保護・維持についても学んだ。農村を訪問し、農村の子どもたちと交流し、教育や生活の実際に触れると同時に、現地の方から発展の実情についての話を聞いた。首都プノンペンの都市化と農村の実態を比較し、どのような発展が人々の真の幸福につながるのか考え、ディスカッションを行った。事後、プレゼンテーションとレポートの作成を行った。

④ 健康・福祉に係わる学習

奉仕活動を担当する生徒委員会が主催して「日本介助犬協会」から講師を招いて講演会を行った。実際に介助犬を帯同され、活動の実際を目にすることもできた。この活動を通して障害のある人の生活の実際を知り、介助犬への理解を深め、異なる立場の人の生活についての理解を深めた。自分たちは実際に何ができるか考え、委員会が実施している毎月の「10 円募金」の寄付先を介助犬協会とすることとし、全校への理解を求めた。自主的・継続的な活動となったことが評価される。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

長崎研修旅行

長崎県文化振興課『旅する長崎学』

一般社団法人平戸観光協会『平戸キリシタン紀行～平戸への旅～』

一般社団法人天草宝島観光協会『天草～キリスト教の伝来と南蛮文化～』

長崎市平和推進課『核兵器のない未来のために：平成 28 年長崎平和宣言解説書』

遠藤周作『沈黙』、『女の一生』

カンボジア体験学習

日本国政府アンコール遺跡救済チーム『神々の寺院：バイヨン』

NHK アーカイブス選『喪失からの再生～カンボジア』2017. 4. 2 NHK 総合

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクールとしての特別な名称をつけた活動は行っていないが、総合的な学習において、中等科１年生からのプログラムの基本方針として、ユネスコスクールが提唱する ESD、文化的多様性、いのちの尊重などをあげ、発達段階に応じて課題意識を深め、生徒が自ら課題解決をする力をつけることのできる指導内容としている。事前学習や事後のふり返り、研究レポート等の課題を設け、探求型の取り組みに努めている。

グローバルマインドの育成において、語学力など個人の能力の育成だけでなく、世界の人々と共に生きる「共生」の姿勢の育成に努めていることは本校の教育理念によるが、この点はユネスコスクールの考え方と一致するところと捉えている。

学校外の団体との連携も促進しており、活動の視野は広がっている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

２０１７年度末より、SDGs についての意識を深め、各学年で一つずつ SDGs 課題を担当し、卒業時まで継続して学び、活動することにしている。また、これまでの活動についても、SDGs のどの課題に相当するかを考えながら活動している。教科の学習においても、探求学習の題材に取り上げている。SDGs に取り組むことにより、持続可能な開発の視点は広く、深められるものと考えられる。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

活動についての評価は特に行わなかった。今後の課題である。SDGs の取り組みを深めたことにより、２０１８年度からはこれまでと異なる視点で取り組めるものと考えている。ユネスコスクールの一員であることの意識をさらに高めたい。すでにある本校の取り組みについて、ユネスコスクールとしての視点から再評価することにより、より一層本校の教育の独自性が深められるものと考えられるので、ぜひ取り組みたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

生徒の諸活動について、学校HP上のブログ、学校公式フェイスブックにより外部に発信している。

SDGsについて生徒への発信に努めたところ、長野県でのSDGsの取り組みとの交流を持つことができた。

朝日新聞主催の「朝日地球会議2017」におけるSDGsの講演会に生徒が参加する機会を得ることもできた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

聖心女子大学の公認難民支援学生団体 SHRET とは継続的に関わりを持ち、難民問題についての学習の支援と交流を続けている。

カンボジアでは JST (Joint Support Team for Angkor Community Development) と継続的に関わりを持ち、現地の開発に実際に携わる人々から学んでいる。

日本介助犬協会から講師派遣を受けた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

静岡県にある姉妹校の不二聖心がユネスコスクールであり、情報交換を行っている。テーマを設けて合同の活動をするにしており、昨年度は難民問題をテーマに本校でワークショップを開催した時に合流した。2018年度は環境問題について、不二聖心がワークショップを担当しており、本校からも参加する。

今後さらに他の学校とも交流を広げたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

ESD の概念を取り入れることで、本校の教育理念の普遍的な意味の意識が深められた。グローバルな活動について、学校外の団体との連携の重要性についても意識が高められた。

SDGs については、本校の活動に取り入れやすく、保護者の理解も得られ、グローバルマインド育成の方向付けとして大きな力がある。全校的な活動として取り組む。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

2018年度は SDGs に焦点をあてて、様々な活動、教科において実践を深めたい。2030年までの長期的な視野で取り組み、SDGs を通して、特に生徒の課題解決能力を高め、世界の課題に主体的に取り組む姿勢を育てたい。全校的に SDGs についての意識を高め、日常的な取り組み意識とし、各教科、諸活動における創意工夫を求めたい。よい取り組みについては全校的に共有していく。

これまでの諸活動についてユネスコスクールとしての観点からの見直しをはかり、グローバルな視点から本校の教育を捉え直したい。それにより、目先の結果にとらわれない、グローバルマインドをもった女子を育てていきたい。